

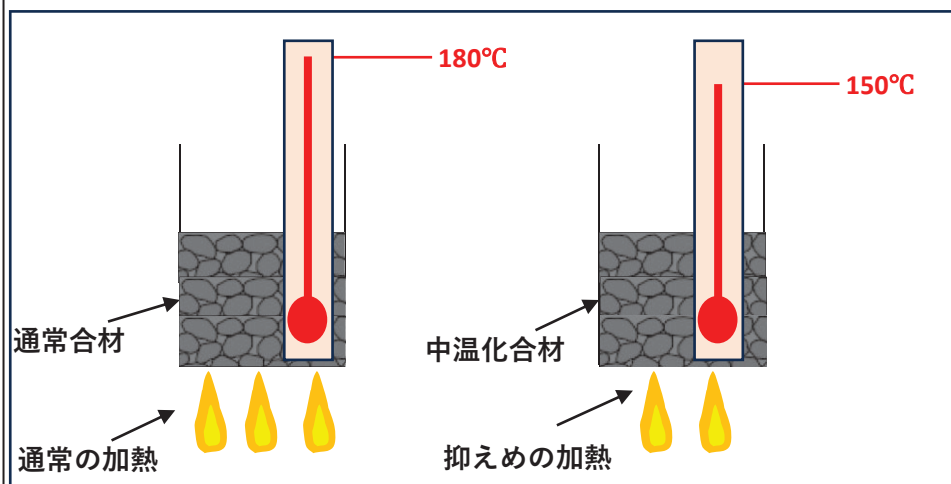
低炭素(中温化)アスファルトでCO₂排出量を削減

近畿地方整備局では、道路脱炭素基本方針に基づき、道路脱炭素化推進計画の策定を進めています。

アスファルト混合物の混合温度を、10～30℃程度下げることによって、製造工程において発生するCO₂を削減し、労働環境の改善や交通開放までの時間短縮を図るなど「低炭素（中温化）アスファルト」の導入を推進します。

低炭素（中温化）アスファルトとは

アスファルト舗装の材料である「合材」を作成する際の温度が低いもの



中温化合材作成時のイメージ図

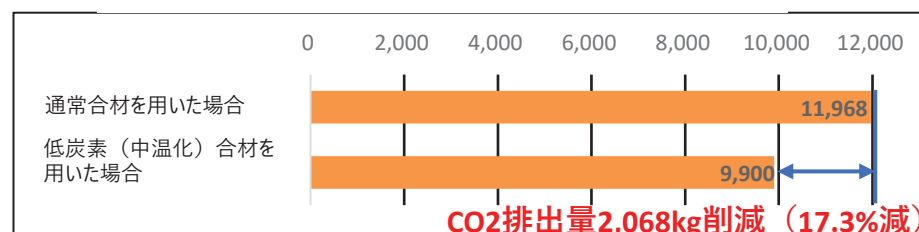
通常の製造時と比べ、加熱温度を10～30℃下げ、
CO₂排出量を削減
(CO₂排出量を約12～18%程度削減)

低炭素化を推進



【施工概要】
舗装面積1780m²
使用合材約440t

低炭素(中温化)アスファルトを用いた施工工事
【滋賀国道事務所管内舗装修繕工事】



上記工事における合材作成時のCO₂排出量(Kg)

杉の木約148本分の年間吸収量を削減
【杉の木1本分が年間で吸収するCO₂量=14kg】

